

井口教頭先生の講話

7月10日（火）、全体朝会で井口教頭先生の講話がありました。教頭先生は2つのお話をしてくださいました。井口先生の講話の抜粋を下記に掲載します。

1つめは、島尻教育研究所で研修員として研修しているとき、研究所の車にガソリンを入れ帰ってくると、「お電話を下さい、安里」

というメモがあり、電話すると8年前の教え子のお母さんでした。6年生だったその子は、かけ算九九が苦手で、時々間違えることがあったので、いっしょに勉強することを約束しました。その頃バスケットを教えていたので、それが終わった後、7時からの勉強でした。毎日15分から20分の短い時間なのですが、継続しました。1ヶ月たち、2ヶ月たってもなかなか勉強の成果はあらわれません。とうとう卒業式まで続けたのですが、それでも成果は表われないままでした。それでも、彼はあきらめませんでした。頑張ることだけはあきらめなかったのです。その後、どうなったかをお母さんから聞くことができました。中学校に進学した彼は、学び始めた英語に興味を持って、コツコツと勉強を続け、高校に進学し、そして、名桜大学に入学したというのです。「あのあと、頑張ったんですね。」

と、お母さんに言うと、お母さんは「6年生の時、井口先生に会わなければ、この子はどんなふうになっていたか、わかりません。先生が頑張ること、続けることを教えてくれたので、今のこの子があるのです。」と、お話を続けてくれました。今頑張っていて、成果がなくても、諦めないでコツコツと頑張ることを続けることが大切だと言うことをこの子から学んだ気がしました。

2つめは、6年生の担任をしている時、4月の中旬頃男の子が転入してきました。お家でトラブルがあり、お母さんがいなくなり、お父さんとも一緒に住むことができず、里親の牧師さんの所で生活をするようになった子でした。毎日、お父さん、お母さんに会いたいと泣いたり、悪いことをしないと、里親さんの所から出してもらえないと悪いことを繰り返したりしていたそうです。

お父さんとやっと一緒に生活することができたころには、勉強がおくれていました。なので、この話を聞いたとき、この子のために何ができるのだろうかと考えて、将来のために勉強を教えて力をつけてあげようと思いました。そして、宿題をだしました。でも、一度もやっけてこないのです。話を聞くと「宿題をやる時間がない。」というのです。その日、バスケットの指導を終えてから、家庭訪問をすると、この子は、学校から帰ると、下の妹をお風呂に入れ、チャーハンを作り、味噌汁を作り、妹に食べさせ、洗濯をしていたのです。夕方から仕事に出かけるお父さんのかわりに、すべての家事をこの子がしていたのです。

次の日から宿題を学校にいる間のすきま時間を利用して、教えてあげることにしました。短い時間を大切に、毎日コツコツと勉強を続けてくれました。この子も、中学、高校と進学し、社会人になっているのです。

さて、皆さんは、この2つの話を聞いてどんな感想を持ちましたか？ぜひ、聞かせてくださいね。と言って、教頭先生は、お話を締めくくりました。

「学力向上が僕の趣味です。」と、公言する井口教頭先生のその言葉の後ろにあるとても大きな愛情を感じた、教頭講話でした。



写真1 講話の様子①



写真2 講話の様子②